
緋弾のARIA [Intersecting fate]

やったか!?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア 「Intersecting fate」

【Nコード】

N0886U

【作者名】

やったか!?

【あらすじ】

遠山キンジ、神崎・H・アリア 二人が出会った頃に主人公、坂本・D・龍次と赤月カナエ（オリキャラ）と出会う。この4人がそれぞれの宿命を背負い、それぞれの宿命が交わり一つの物語へと発展していく。

紹介（前書き）

今後もろともお願いします。

紹介

どうも始めまして。新しくここで小説書いていこうと思っている「やったか!？」です。学校のほうとかで忙しくてなかなか更新が進まないかと思いますが、未永い御付き合い(長いのか・・・?)をしてもらえれば光栄です。

まずうp主は基本的に知識が抜けてるので読者様からのお声で修正を加えていきたいと思えます。

Qなぜ書こうと思ったし A太陽はなぜ沈む?月はなぜ昇る? いや簡単に説明すると書きたくなってうずうずしただけ です。

@うp主は貰い知恵が多いので間違ったことはっか覚えやがります。そこは読者様の厚い知識で(おい
なにはともあれこれからお願いします。

プロローグ(前書き)

なんというか、はい、恒例のプロローグですハイ。

プロローグ

東京湾の近くにある人工浮遊島……。そこの一角にある武偵高校行きのバス停に俺は足を速めていた。

今日は入学式なのにいきなり遅刻とかは勘弁したいものだ。

俺の名前は坂本・D・龍次。Dの意味は教えてもらったことのない意味の分からないものである。

両親は俺が物心ついたときには他界している。

唯一の肉親だった姉さんも1年前のシー・ジャック事件で「武偵殺し」に命を奪われた。

いや、正確には俺を守って死んだ。

そして俺は通常の高校から姉さんの意思を引き継ぎ武偵高校へ入学を果たした。

教科は「強襲^{アサルト}」で入科試験でSをつけられた。

別に何かしたわけじゃなく普段どおり、姉さんに教えて貰ったことを使いやすいようにアレンジしたものだ……。。

つと、そんなことを話してる内にバスがやってきた。

58分。このバスに乗り遅れたら楽しい自転車通学の始まりだ。

しかし帰ってきたのは謝罪の言葉でも何でもなかった。

「!?!? 横へ跳んで!」

一瞬状況が飲み込めなかったが 早く! と後押しされ横へ跳び込む。

受身を取って脇の近くにあるガンホルスターのボタンを外しリボルバー・パイソンを引き出し安全装置セーフティを解除し、身構える。

すると ウィィィィイン という音を立ててセグウェイが6台ほどやってきた。

UZI搭載の。

「はあ!?!」

あまりにシュールな光景で変な声を出してしまったがもう一度横へ跳び確実に距離を開ける。

直後 ダンガンガガガガンガン!!! と何十もの銃声が鳴り響く。

「どうなってるんだよ・・・」

もしかしたらグラウンド内部に入ってくるかも知れない思ったが、セグウェイ共は侵入しようとしなない。

ただ自転車の残骸にUZIを乱射しているだけだった。

俺と反対側に隠れた女（らしき奴）はまばたきでモールス信号を使ってきた。

『私1人だと火力負けする 支援頼む』

だと・・・？無茶を言うな・・・UZI相手にHGで勝てるわけがない。

とりあえず返事を返すことにした。

『状況の把握が困難 救援の到着を 粘るべき』

その返事を読み取ると頭を押さえて女は2丁のHGの弾倉を抜き弾丸の装填を確認してもう一度弾倉を入れなおした。

『いい 私一人で行く』

その返事が送られた直後女は飛び出し2丁のHGから火を吹かせている。

『2丁拳銃ダブル・・・か』

その女の姿は、死んだ姉さんの最後にそっくりで怯えていた俺を慰めるように呟いて。

姿を見せなくなった。

『大丈夫。私1人で行くわ』

それが姉さんの遺言だった。

そして。あの女の背中も、姉さんに似ている。

頼もしくて、強くて、どこか優しい、そんな後ろ姿。

・・・ああ、重なっちゃおう。

気がついたときには遅かった。

HSS、ヒステリアタイムと呼んでいる俺の持病が発生した。

通常の30倍もの力を発揮できるヒステリアタイム。

発動条件は「守りたい」　そう思うことだ。

そして気がついたときには、走っていた。

左腰の後ろに位置するホルスターからリボルバー・パイソンをもつ片方抜き、2丁で構え特攻する。

「・・・もう、失いたくない」

そう呟きながら俺は秒間10連射される弾丸をビリヤードで全てはじき返し、弾丸を6発撃った。

その弾丸の軌道はUZIの銃口。6発の弾丸は6機のUZIの銃口に入り、内側から6機全てが起爆し、

セグウェイも爆発した。

「ふう、大丈夫か？姉さん」

あ、違う コイツは姉さんじゃない。

なのに、姉さんと呼んでしまう。

俺の一番嫌いなモンだ。

こうして俺は、コイツと出会ってしまった。

プロローグ（後書き）

まあ こんな感じですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0886u/>

緋弾のARIA [Intersecting fate]

2011年10月9日06時43分発行